

コントロールレバー

リバーブ 上鍵盤左拍子木にあるレバーのうち、左端の2段レバーの上側の白いレバーです。これにより、大ホールで演奏しているような残響が得られます。またこのレバーは、連続可変になっていしますので、残響のかかり方を強くしたり弱くしたり自由に調節できます。

サステイン エレクトーンでは、ふつう、キーを押した瞬間に音が出て、離れた瞬間にブツリと切れてしまいます。ところが、ピアノなどではダンパーペダルを踏んでいけば、キーを離れた後でも余韻が残ります。こうした効果を出すのが、サステインです。

ペダルサステイン 上鍵盤左拍子木の左側の2段レバー下側のペダルサステインレバーを調節するこ

とにより、ペダル音のすべての音にサステインをかけたり切ったり、サステインの長さを選ぶことができます。

アッパーサステイン・ローサステイン(E-10はアッパーのみ)

上鍵盤左拍子木にある3組のレバーのうちの中央の黒白2段(E-10は黒のみ)のレバーです。このレバーによってサステインの長さが調節できます。E-20の場合、下側(黒色)のレバーがローサステイン、上側(白色)のレバーがアッパーサステインです。レバーは右でサステインが最も長くなり、左で最も短くなります。

マニュアルバランス 上鍵盤左の拍子木にある3組のレバーのうち右端のレバーです。これは上鍵盤と下鍵盤の音のバランスをとるためのもので、ふつうは中央位置にしておきます。しかし、上鍵盤がメロディをとり、下鍵盤が伴奏の

役を果たしているときなど、このレバーを右にまわしてバランスをとります。逆に下鍵盤の音が弱すぎるときは、左にまわします。

エフェクトタブレット

アッパー・タッチ・ワウワウ

鍵盤右拍子木のタブレットのうち左側のタブレットです。このタブレットを入れると上鍵盤を左右に振動させることにより“ワウワウ”といった感じで音色が変化します。

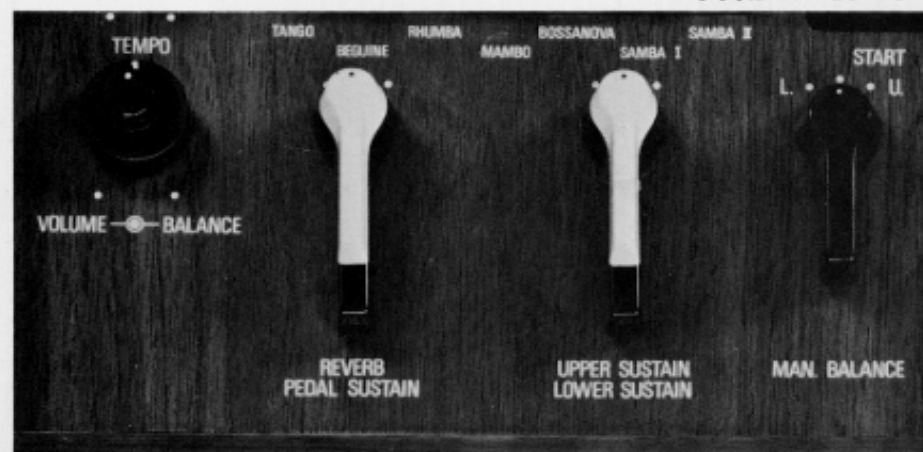
アッパー・アタック・ワウワウ

上鍵盤右拍子木の右側のタブレットです。これを入れると、上鍵盤をタッチする瞬間に自動的に“ワウ”という感じで音色が変化します。(ワウワウの項参照)

ローサステイン 下鍵盤右拍子木の10個のタブレットのうち、上段の左端のタブレットです。このタブレットをONにし、ニーレバーを操作すると、下鍵盤(8', 4')のトーンレバーの音色にサステインがかかります。

アッパーサステイン このタブレットをONにし、ニーレバーを操作すると、上鍵盤の16'(E-20のみ)8', 4'のトーンレバーの音色にサステインがかかります。サステインタブレットがONでも、エフェ

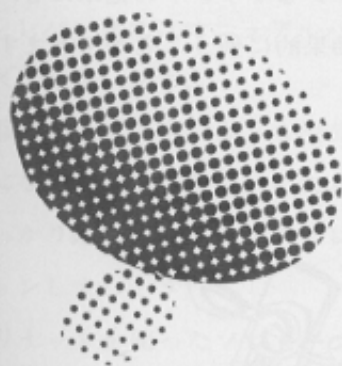
写真はE-20です



クトニーレバーコントロールを作動しなければサステインはかかりません。

また左側のサステインレバーをセットしなければ、タブレットとニーレバーを操作してもサステインはかかりません。

ソロトーンのダンパー効果（減衰効果）をかけるときもこのサステイントラレットとニーレバーを使いますが、減衰時間の調節はできません。（サステインのエフェクトニーレバーコントロールは、垂直に下した時がOFFで、棚板の方へ水平にした場合も、垂直から右へ押した場合もONです。）



アッパープリセット・ツウ・パネル

このタブレットは後記「プリセットについて」の項にある様にプリセットによる演奏途中タブレットをONにし、ニーレバーの操作によって一時的にプリセット状態からトーンレバーパネルのトーンレバー効果に切り換える事ができる働きをします。また、ニーレバーを戻すとプリセットのトーン

レバー効果に戻ります。ただし、これはプリセットパネルとトーンレバーパネルの上鍵盤レバーについてのみ効果が発揮されます。

シンギングビブラート（E-20のみ）
このタブレットをONにし、ニーレバーコントロールを操作するとビブラートの速さと深さが同時に変化します。つまりニーレバーの操作（ニーレバーを右にヒザで押す度合）が浅い時はビブラートの速さは遅く（3Hz）、深さも浅いわけですが、右へ押していくにしたがって、速く（8Hz）深くなります。この時は、トーンレバーパネルのビブラートはきかなくなります。

マニュアル・アタック

このタブレットをONにすると、上鍵盤の16', 8', 4'の音色と下鍵盤の8', 4'の音色にアタックがかかり、音の歯切れが良くなります。（E-10のマニュアルアタックは上鍵盤の8', 4'です。）

トレモロ 下鍵盤右拍子木の10個のタブレットのうち、手前の5つがトレモロ用のタブレットです。（トレモロについての項参照）

〈フットスイッチセレクトアーズ〉

グライド 下鍵盤左拍子木左端のスイッチです。これを入れ、エクスプレッションペダルの左側奥の

スイッチを押すと、全鍵盤の音程が僅かに下り、押したままではその状態が保たれます。スイッチを離せば元の音程へ戻ります。

ハワイアンのスチールギターの感じを出す場合、その他にもメロディや伴奏などに特にアクセントをつけたい場合などに使います。

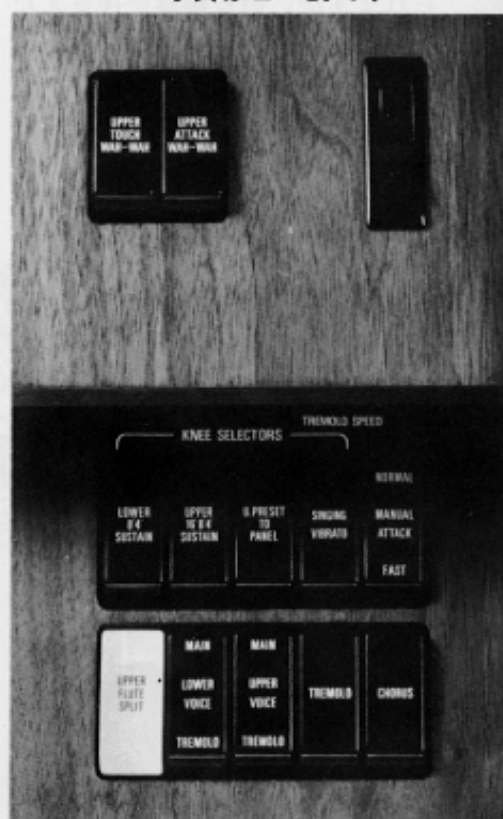
リズムストップ

（オートリズムの項参照）

ダンパー（E-10のみ）

グライドの隣にあるスイッチです。サステインと同じ働きをし、これを入れておけば、演奏中どちらを使ってもサステインがかかります。

写真はE-20です



アッパー・ワウワウ

上鍵盤右拍子木にアッパー・アタック・ワウワウとアッパー・タッチ・ワウワウのタブレットがついています。

アッパー・アタック・ワウワウ

このタブレットを入れ、上鍵盤をタッチすると、その瞬間に音色が変わり、すぐまた自動的に元に戻ります。これが“ワウ”という感じに聞こえるところから“ワウワウ”と言われ、従来主としてエレキギターなどの演奏に使われていました。これは、ユニークなメロディラインなどに使うと大変効果的です。

単音、和音ともにこの効果は得られますが、ある鍵盤を押さえたまま次の鍵盤を押しても、次の鍵盤にはこの効果はかかりませんから注意しましょう。

アッパー・タッチ・ワウワウ このタブレットを入れ、上鍵盤をタッチビブラートのように左右にゆらすと“ワウワウ”といった感じで音色が変化します。

アッパー・アタック・ワウワウとうまく使い分けて、あなたの演奏により豊かな表現力を加えてください。

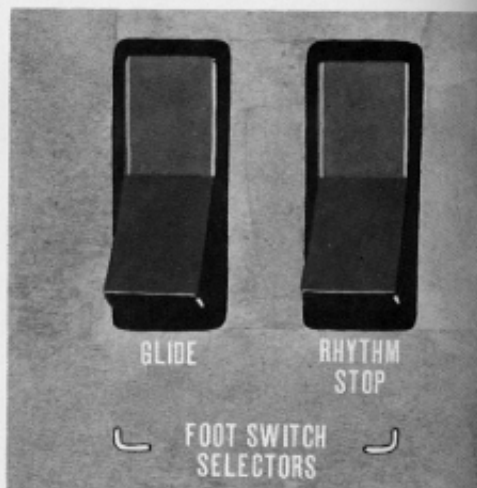
なお、アッパー・アタック・ワウワウとアッパー・タッチ・ワウワウを同時に入れた場合には、右側のアッパー・アタック・ワウワウが優先します。

グライド

下鍵盤左拍子木に、フット・スイッチ・セレクターズとしてグライドとリズムストップ・スイッチ（オートリズムの項参照）ダンパー（E-10のみ）があります。

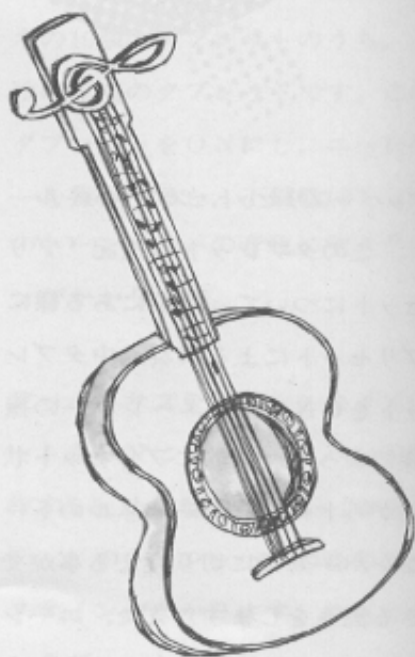
これはエクスプレッションペダルの左側奥にあるフット・スイッチに2つの機能（E-10では3つ）があり、これをスイッチで選択します。

グライドスイッチを入れ、フット・スイッチを押すと、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の全ての鍵盤のピッチ（音程）が半音近くまで（約100セント）下がり、押したままではその状態が保たれます。フット・スイッチを離した時に元のピッチに戻ります。なお、ピッチが下がった状態ではビブラートが切



れるようになっています。

この効果は、弦系統のレジストレーションで使うとスチールギターに似たサウンドが得られ、ハワイアン音楽、ウエスタン音楽のムードがでてくるほか、サイケデリックなサウンドの追求にも、大変効果的に使うことができます。



ソロトーンは、レバー1つでソロ楽器の音色が楽しめる機能です。

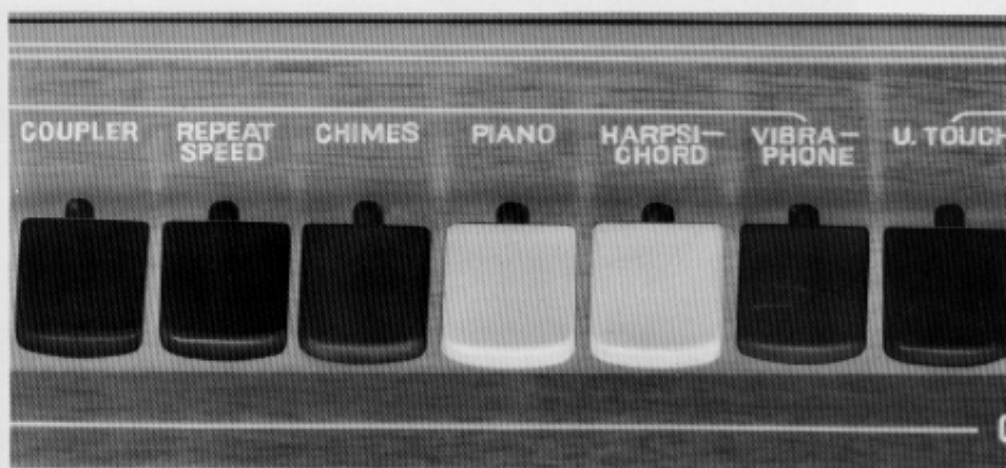
E-20にはチャイム、ピアノ、ハーブシコード、ビブラホンの4種、E-10にはその他にアコーディオン、ハワイアンギターの6種があります。

チャイムには減衰効果がセットされていますが、その他のものに減衰効果がほしい時はサステイン(E-10では、サステインに加え、ダンパーが併用できます。)を用いて下さい。但し、この場合のサステイン、ダンパーでは減衰の長さは調整できません。また、クリックストップがありませんから、他の鍵盤との音量バランスは、そのトーンレバーまたはマニュアルバランスで行ないます。

上鍵盤においては次のような優先順位になっていますから、これらをしっかり頭に入れてレジストレーションしましょう。

1. プリセットを使ったソロトーン以外の音色。
2. ソロトーン。右側が優先します。
3. その他の音色。

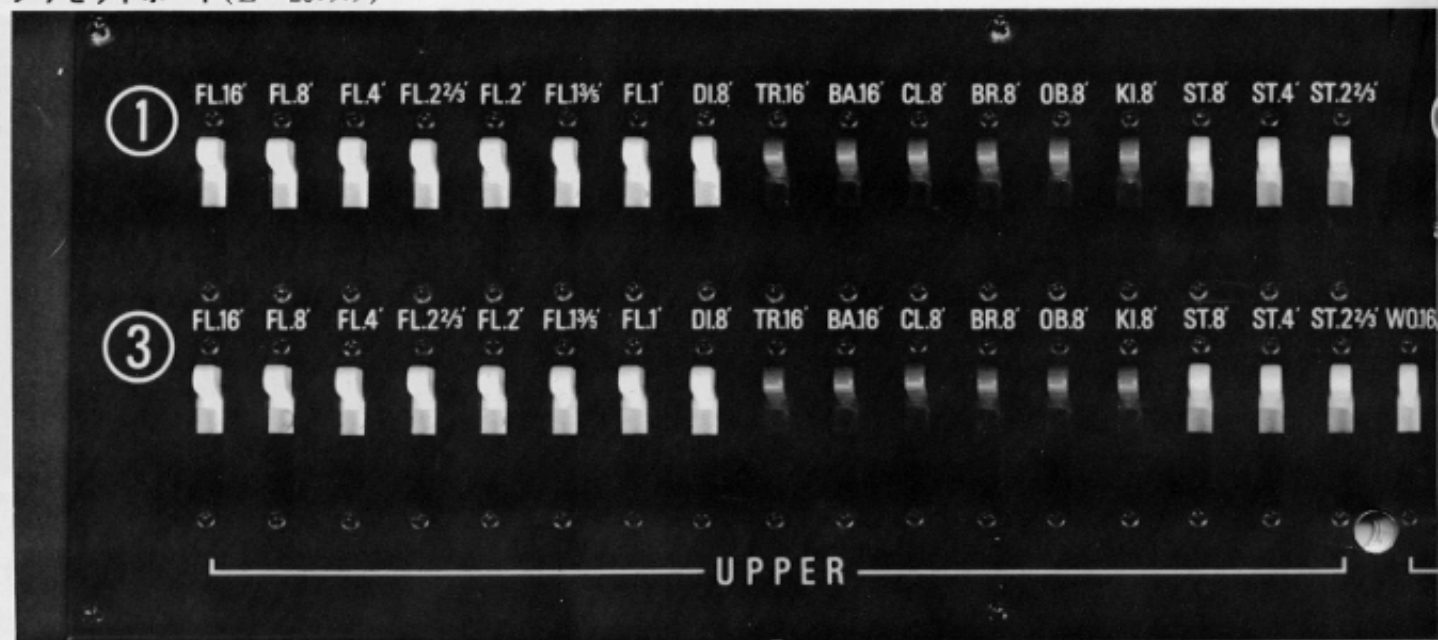
なお、E-10にはオルガンプリセットアンサンブルがついていて、このレバーを入れるとソロトーンの音色と他のトーンレバーの音をミキシングすることができます。この場合、トレモロをかけてもソロトーンの音だけは単独にメインスピーカーから出ます。



写真はE-20です



プリセットボード(E-20のみ)



プリセットは、E-20がとり入れた画期的な機能です。あらかじめ演奏者が、プリセットパネルのトーンレバーを曲想に応じてセット(プリセット)しておき、演奏途中プリセットボタンの操作によって切り換えます。トーンレバーパネルのトーンレバーの操作ではとても時間的に切り換える余裕のない場合でも、瞬時に切り換え、変化の大きな演奏ができます。

プリセットボードの位置

プリセットパネルは、E-20に向ってお座りになると、ちょうど左足上部の口棒の下に格納されています。プリセットパネルには、上鍵盤トーンレバー系列①②と上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤トーンレバー系列③とピッチコントロールツマミが内蔵されています。

プリセットレバー

プリセットレバーは、トーンレバーパネルのレバーに対応し、クリックストップも0、1、2、3の段階に分かれており、操作も全く同じです。

プリセットレバー①②は、トーンレバーパネルの上鍵盤トーンレバーに対応し、プリセットレバー③は、トーンレバーパネルにある上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤トーンレバーに対応します。

ただし、ソロトーンとカブラーは除きます。

プリセットボタン

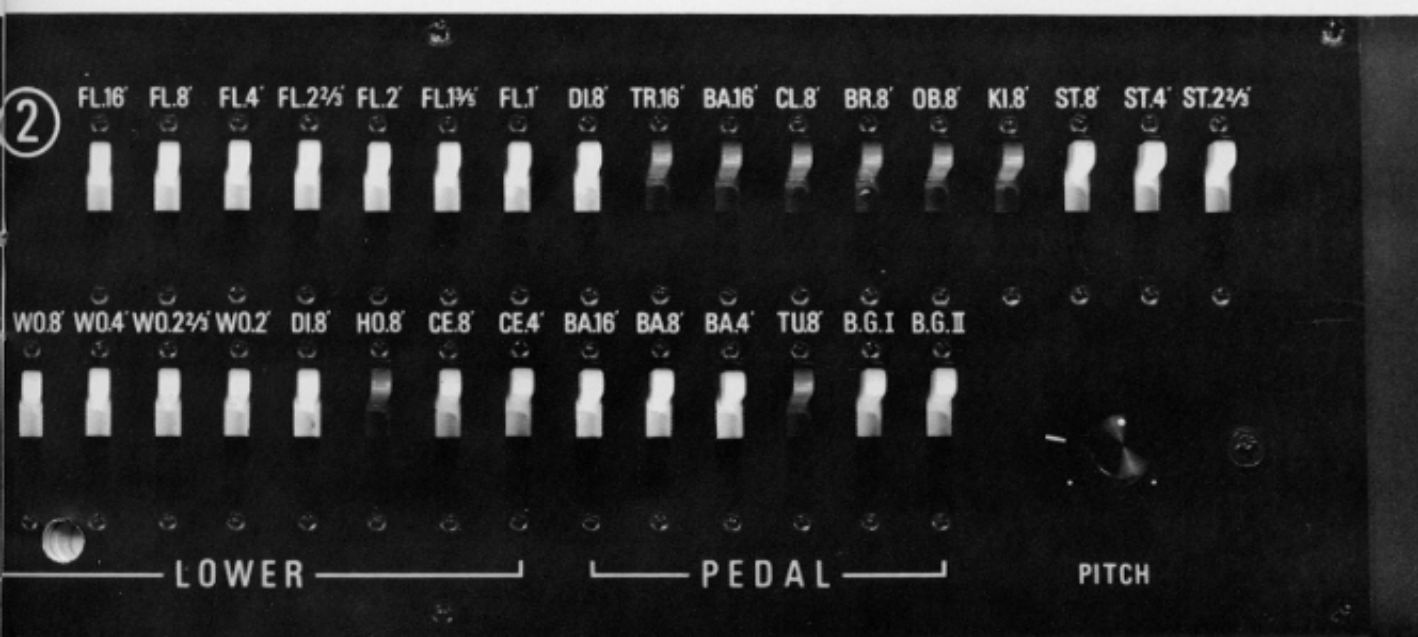
プリセットボタンは、上鍵盤と下鍵盤の間に並んでいます。左側よりペダルソロボタン、プリセットボタン①②③④⑤の順です。

プリセットボタン①②③は、プ

リセットレバー群①②③と連動しています。すなわち①のプリセットレバー群を選択セットし、プリセットボタン①をONの状態にしますと、トーンレバーパネルのトーンレバーセットにかかわらず、①でセットしたプリセットレバー群の効果が発揮できます。②、③のプリセットボタンについても同様です。

プリセットボタン④は、外から選択できない固定形になっておりFull Organにセットしてあります。

プリセットボタン⑤は、プリセットキャンセル(Cancel)ボタンです。プリセットによる演奏を元に戻す場合にこのボタンを操作します。



ピッチコントロール

プリセットパネル内のPITCHのツマミはピッチコントロールで、他の楽器とのアンサンブルにおいて効果的です。たとえば、オーケストラとの共演においてもピッチ合わせが簡単にできます。

右廻しでピッチが上がり、左廻しでピッチが下がります。ピッチ変化範囲は約439～445 Hzで、標準ピッチ位置は上図の白線の位置です。工場出荷の際は標準ピッチ440 Hzにセットされております。

プリセットボタン (E-10のみ)

E-10のプリセットボタンはE-20の演奏者があらかじめ組み合わせてセットする方式とは違い、外から選択できない固定形になっています。

①アタックのきいたフルート系の音色で、ジャズサウンドが楽しめます。

②フルオルガン的な音です。

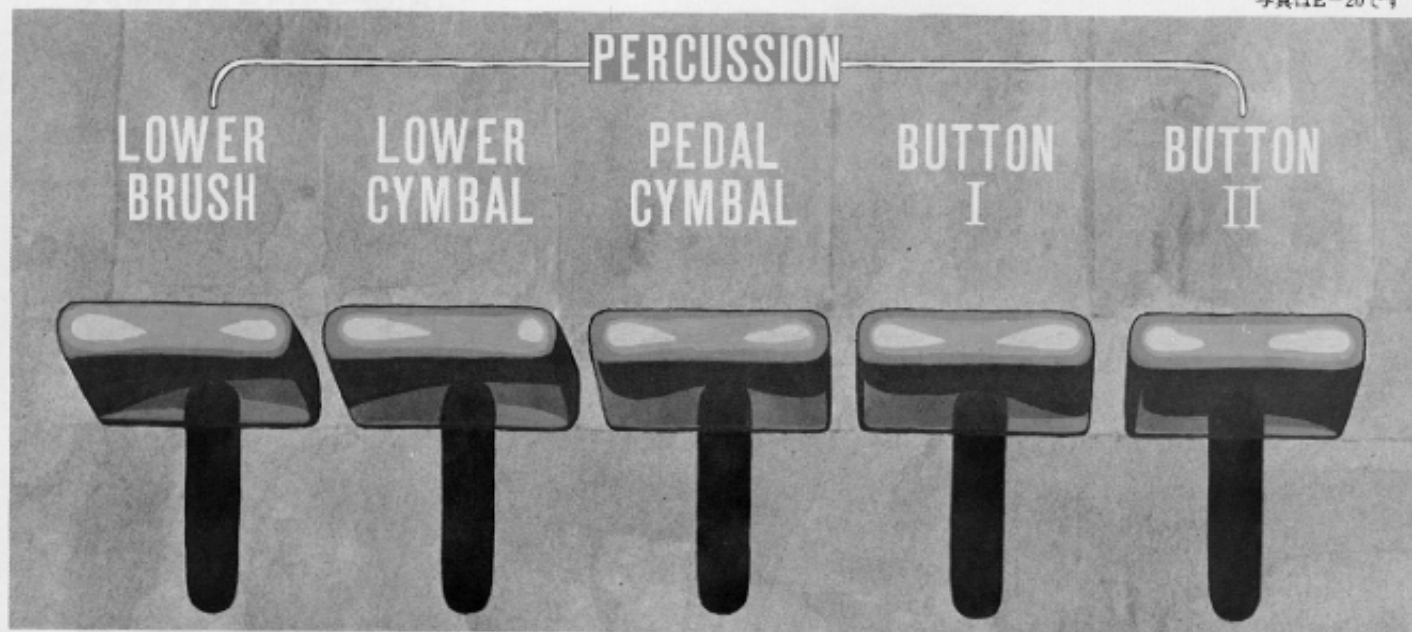
③ストリング系が混って重厚なハーモニーが得られます。

④キャンセルボタンです。

などの音がプリセットされています。



写真はE-20です



エレクトーンには、音色を多彩に変化させるトーンレバーの他にさらに演奏巾を大きく広げ、よりエレクトーンを楽しんでいただくために、いろいろな効果を演出するエフェクトが組み込まれています。

パーカッションは、数々のエフェクトの中でも、楽しさを味わっていただくためには最も適した効果といえましょう。

このパーカッションには2通りの使い方があります。その1つは打楽器の効果、つまりマラカスとかクラベス、あるいはスネアドラムのワイヤーブラシショットの音というように、打楽器をもう1台備えると同様の効果を発揮します。たとえば、ジャズやラテンを演奏するときなど、打楽器のバックが素晴らしい雰囲気を作り上げてくれます。

もう1つは雨、嵐、嵐あるいは汽車の音など楽器とは違った楽しい擬音効果、特殊効果として使うことも可能です。

このように、パーカッションとは、いわばエレクトーンの演奏を巧みに演出する腕のいい演出家なのです。

では、E-20のパーカッションについて、くわしくご説明しましょう。

パーカッション

正面パネルの右の5つの緑色レバーがパーカッションレバーです。左側より、LOWER BRUSH (下鍵盤)、LOWER CYMBAL (下鍵盤)、PEDAL CYMBAL (ペダル鍵盤)、BUTTON I (パーカッションボタン)、BUTTON II (パーカッションボタン)、です。この5つの

組合わせによりリズムが非常に明確になりますので、特にマーチなどのようなアップテンポの曲では楽しさが倍加します。また、リズム感を一層伸ばすには、格好の補佐役となるでしょう。

(BUTTON I IIはE-20のみ)

LOWER BRUSH (ローブラシ) ロワーブラシ、ローシンバルおよびペダルシンバルのパーカッションは、下鍵盤とペダル鍵盤に連動しています。

ローブラシは、下鍵盤を押すと、下鍵盤の音色と同時に「チッ」という短い減衰音がダブリます。このレバーの操作により、マラカスあるいはスネアドラムのワイヤーブラシショットを伴奏させると同じ歯切れの良い効果を得ることができます。

LOWER CYMBAL (ローシンバル) この効果も下鍵盤と連動になっています。下鍵盤を弾きま
すと、下鍵盤の音色と同時に「シャーン」という長い減衰音を得られます。ローシンバルにより、
シンバルあるいはスネアドラムのワイヤーブラシロールなどの効果が楽しめます。

PEDAL CYMBAL (ペダルシンバル) ペダル鍵盤を弾くことにより、ペダルの音色と同時に「チャチャ」という音が重なり、一層
歯切れの良い音色となります。これにより、体がウキウキするような軽快なリズムをはじき出すことができます。

BUTTON I (ボタン I) このパーカッションは、下鍵盤左拍子木の4個のパーカッションボタンの
操作で8種の効果音を楽しめるものです。パーカッションボタンの左側より、コンガ、ボンゴ、クラ
ベス、シャーといった感じの音(例えばスネアショットまたはロールの感じ)になっています。
(E-20のみ)

BUTTON II (ボタン II) ボタン I と同様、下鍵盤左拍子木の4個のパーカッションボタンの操作によ
ってパーカッションボタンの左よりシンバル・トライアングル、

さらには演奏家の表現方法によりいろいろとかわってきますが、連
続的に鳴らしつづけると、波の音や風の音などの特殊効果として、
巾広く使うことができます。

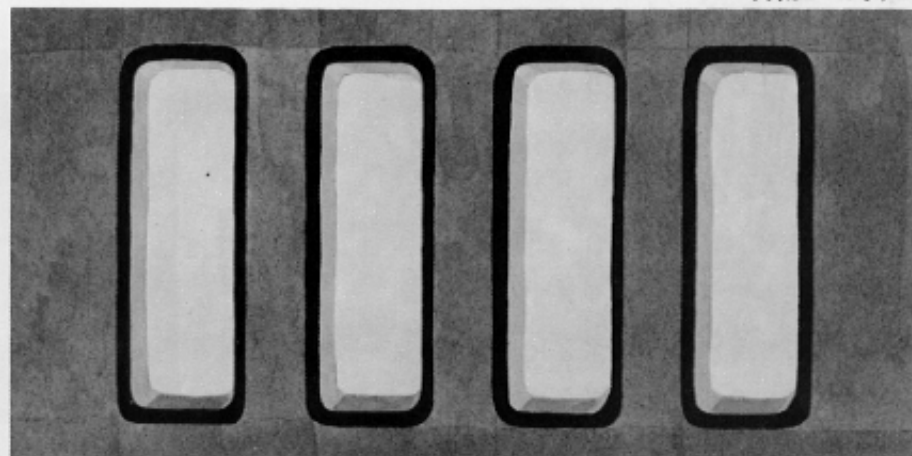
このパーカッションは、打楽器効果だけでなく、このようにボタ
ンを断続的に押したり、エクスプレッションを加えて持続的に押し
たりして巧みな演出を加えれば、暴風雨の場合などを再現することが
できるのです。(E-20のみ)

このように、演奏者の感覚し
いで音の世界を無限に広げてい
くのがパーカッションというわけ
です。



パーカッションボタン

写真はE-20です



E-20・E-10のトレモロ効果には、ヤマハが新しく開発した、「生きた音」を創造するナチュラルサウンド・スピーカーを小型化した特殊機構が組込まれています。

この新しい機構でのトレモロ効果は、従来の反射回転によるものと異なり、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーそのものが回転する仕組みになっています。

各種のトーンレバーの組み合わせから生み出される音色に、ビブラートとはまた違ったなめらかな揺らぎのある音の変化を与えているのがトレモロ効果なのです。

トレモロ効果の操作は、下鍵盤右拍子木にある10個のタブレットのうち、手前の5個のタブレットを使います。

アッパーボイスタブレット トレモロタブレット、またはコーラスタブレットを押した状態にしておいて、トレモロに切換えてみてください。美しいトレモロやコーラスの効果がかけられます。このアッパーボイスタブレットをONにした場合は、上鍵盤にかかります。

ローボイスタブレット このタブレットをONにした場合、下鍵盤にトレモロ効果がかけられます。アッパー、ローボイスタブレットとも同時にONにした場合は、上下鍵盤にトレモロ効果が発揮で

きます。

メロディーとハーモニーのそれぞれに、トレモロ効果を分離してかけることができますので、一層効果的な演奏になります。

トレモロタブレット ボイスタブレットをトレモロの状態にしておいてこのタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーが回転し、豊かなトレモロ効果のかかった演奏が楽しめます。この効果での回転スピードは、ほぼ7Hz(1秒間に7回転)です。

コーラスタブレット ボイスタブレットをトレモロの状態にしてこのタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーがゆっくりと回転して、荘厳なコーラス効果のかかった演奏となります。とくにコーラスタブレットは宗教曲とかスローな演奏に効果的です。この効果での回転スピードは1Hz(1秒間に1回転)です。

ただし、トレモロタブレットと

コーラスタブレットが両方入った状態では、トレモロタブレットの効果が優先します。

アッパーフルート・スプリット・タブレット このタブレットを入れると上鍵盤のフルート系の音にトレモロがかかり、他のディアパソン8'からストリング2 $\frac{3}{4}$ 'までの音にはトレモロがかからなくなります。これにより、全体のサウンドに巾と厚みが加わり、一層アンサンブル効果が増してきます。なお、アッパーフルート・スプリット・タブレットはアッパーボイスタブレットより優先します。



カプラーとはカップルをつくるもの、つまり1つの音と別の音を組み合わせる働きをします。これによって、1つの鍵盤を押しただけでいくつもの鍵盤を組合わせて押した音が出ます。

まず、トーンレバーのうち、フルート8'をいっぱいにおろしてみましょう。8'とはパイプオルガンで8フィートのパイプを基準にしてつくられた音階と同じで、基音と呼ばれます。(エレクトーンにはパイプはありませんが、パイプオルガンの表現がそのまま使われています)

次にトーンレバーのうち、フルート16'をいっぱいに入れてみます。これは16フィートのパイプと同じで、音の高さが1オクターブ低くなります。つまり、これでもとの音にオクターブ低い音が加わったことになります。その音はフルート8'だけで出した音と、そのオクターブ下の音をいっしょに出した場合と同じ二重音です。

同様にフルート8'とフルート4'を加えた場合も同じく、1オクターブ上の音をいっしょに弾いたのと同じになります。しかし重音で弾いた場合と違うのは、カプラーではレバーをどの程度下げるかによって、自由に音の強さを加減できることです。従って、ただの重音とは違い、新しい音色が作り出せるというわけです。

これらのカプラーは、フルートとかウッドとかいう名前にあまりとらわれずに使ってください。プラス8'にストリング4'とフルート16'を加えるといった使い方ができ、その組合わせは、上下ペダル鍵盤のそれぞれの範囲で自由に選べます。上鍵盤のトーンレバーなどは、ちょっと数え切れないほどの組合わせ方があるわけです。

カプラー効果

16'……オクターブ下の音がでます。

8'……実音（弾いた鍵盤と同じ高さ）がでます。

5 $\frac{1}{2}$ '……5度上の音が出ます。

(E-10のみ)

4'……オクターブ上の音がでます。

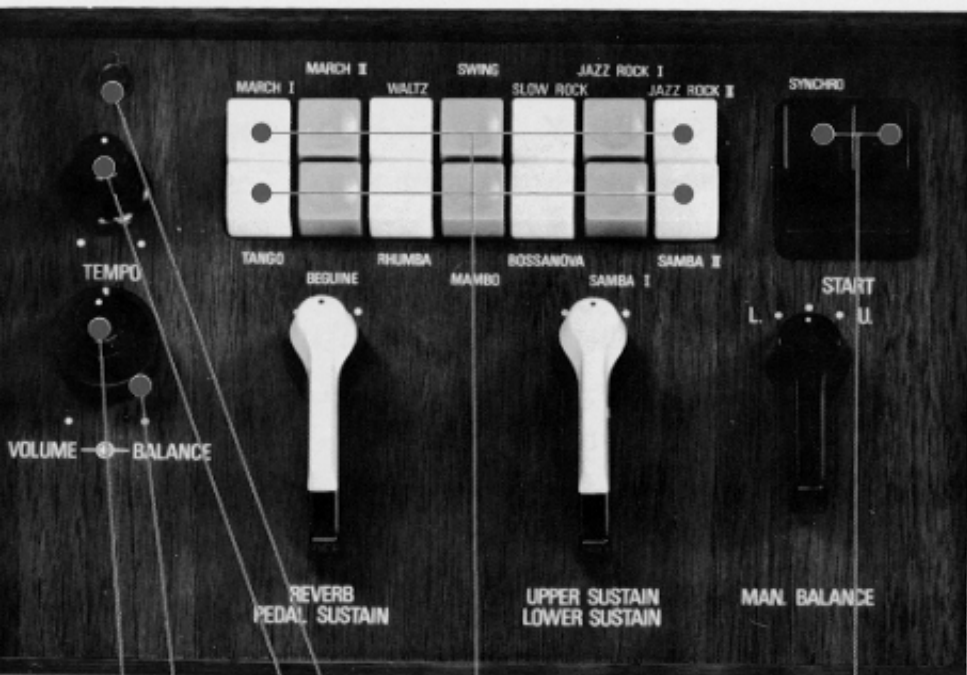
2 $\frac{1}{2}$ '……オクターブと5度上の音がでます。

2'……2オクターブ上の音がでます。

1 $\frac{3}{4}$ '……2オクターブ3度上の音がでます。(E-20のみ)

1'……3オクターブ上の音がでます。(E-20のみ)





オートリズム各部の使い方

オートリズムの音はエレクトーン本体のスピーカーから出るようになっていますので、まずエレクトーンの電源スイッチを入れてください。

リズムセレクトター

14種のリズムがあります。好きなリズムのボタンを押してください。2つ以上のリズムを同時に鳴らす場合は、ボタンを必要な数(3個くらいが限度)だけ押してく

ださい。この場合、指を同時に離すようにします。

リズムのチェンジは、次のリズムのボタンを押すことで前のリズムは自動的にキャンセルされます。

各リズム間のテンポ(4分音符を基準)は一致していますから、曲の途中から違ったリズムで演奏することもでき、より曲の表現を多彩にします。

スタートスイッチ

あらかじめ、リズムを2小節か

4小節鳴らしてから曲をスタートする場合には、スタートスイッチを使います。スイッチをONにすると、リズムが第1拍目からスタートします。

スイッチをOFFにすれば、リズムは止まります。

シンクロスタートスイッチ

曲とリズムを同時にスタートさせたい場合は、シンクロスタートスイッチを使います。スイッチをONにしておくと、下鍵盤またはペダル鍵盤と連動して、鍵盤を軽くタッチしただけで同時にリズムが第1拍目からスタートします。

この場合、上鍵盤は連動していませんから、上鍵盤だけでイントロダクション(前奏)を弾いておいて、曲の頭からリズムと同時にスタートするということができます。

ストップは、シンクロスタートスイッチをOFFにしてください。

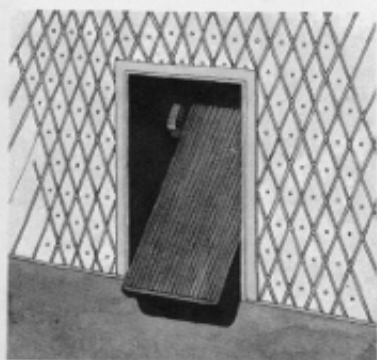
なお、スタートスイッチとシンクロスタートスイッチはどちらかに限定してお使いください。スタートスイッチで始めた時は同じスタートスイッチで止め、シンクロスタートスイッチで始めた時はそのスイッチで止めるような習慣をつけてください。ただしフットスイッチをお使いになる場合はこの限りではありません。

フットスイッチ

スタート・スイッチ又はシンクロスタートスイッチで曲を弾き始め曲の途中で短いブレイク（リズムをいったん止めること）をする場合、または最後にリズムと曲を同時にストップさせたい場合にはフットスイッチを使います。

フットスイッチは、フットスイッチセレクターズの“リズムストップ”をONした後エクスプレッションペダルの左側の奥についている長方形のゴムを右足のつま先で左側に押せばかかります。再びスタートするときは、もう一度押し直します。

ただし、曲の最後にフットスイッチを使ってリズムを止めた場合は、スタートの時に使ったスイッチはONの状態にある筈ですから必ず一旦OFFの状態に戻しておくように心掛けてください。



テンポコントロール

オートリズムのテンポを自由にコントロールすることができます。

シンクロスタートスイッチを使う場合は、スイッチをONにしておくと、音を出さない状態でテンポインジケータランプによりテンポを目で確認することができます。原則として4分音符の単位で点滅しますが、スタートすると各小節の頭で点滅するように変わってきます。

オートリズムボリューム

オートリズムの音量と他のマニュアル鍵盤のバランスをとります。適度の音量を工夫してみてください。一度オートリズムボリュームでセットされた音量は、エクスプレッションペダルによってマニュアル鍵盤と同じように変化します。

バランス調整

バランス調整は、バスドラムなどの低い音とシンバルなどの高い音との音量のバランスを、使う人の好みに調整していただくためと同じリズムでも曲によってそれぞれ違った感じで使っていただくためにあります。

ツマミを右にまわすとバスドラムなどの低い音が弱くなり、シンバル系統の高い音が強くなります。左にまわすとバスドラム、ボンゴコンガなどの太鼓の音が強くなります。シンバル系統の音量が下がります。一般的には、ツマミを右にまわし

た方が軽快な感じになります。

個々のリズムのバランスは、後述の「演奏はこうして」の項参照。

リズムストップ

フットスイッチセレクターズのリズムストップをONしてからフットスイッチを使ってください。グライドになっているとリズムストップとして使用できません。



演奏はこうして

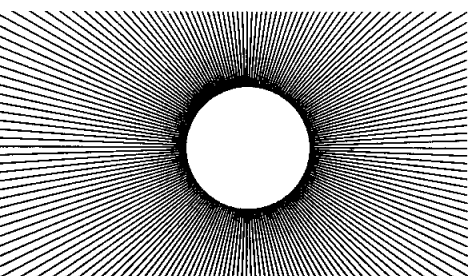
マーチⅠ 2拍子のリズムです。マーチ・ポルカにはもちろん、4拍子の曲でも「聖者の行進」などのオルタネーティング・ベースを使う場合には最適です。2拍子のスネアードラムの音が気になるようでしたら、バランスつまみを右にまわせば軽快な感じになります。

マーチⅡ 文字どおりのマーチです。「大脱走のマーチ」「クワイ河マーチ」などに合わせてみましょう。

ワルツ 3/4拍子です。左手の伴奏と同じパターンになりますからリズムと伴奏とずれないように注意しましょう。テンポを速く、軽い感じで弾くときは、バランスを右にまわして好みのバランスを作ってください。

スイング 4/4拍子系統の曲にはテンポの速い遅いを問わず使うことができます。これにマーチを混ぜますと、バスドラムが4分音符で1拍ずつ鳴りますから、曲の途中から盛り上げるために使うと効果がでます。

スローロック いわゆる「ロッカ・バラード」といわれるリズムです。イタリアのカンツォーネとか、日本のポピュラーソングなどにこのリズムが多く使われています。ワルツのリズムを混ぜるとアクセントができて、いっそう華やかになります。



ジャズロック I ジャズロックの基本パターンです。バスドラムの音量が邪魔になるようでしたら、バランス調節をしてください。スイングやマーチを混ぜると、ジャ

ズロックのバリエーションとして効果的に利用できます。またルンバ、ボサノバ、サンバを混ぜるとそれぞれチャチャ、マンボに似たリズムができ、ワルツを混ぜるとアメリカッチに似たリズムができます。「蜜の味」などの曲が生きてきます。ただし、ワルツを混ぜた場合はテンポが少し速くなりますから注意してください。

ジャズロック II ロックのバリエーションで、俗に「シェイク」といわれるリズムパターンです。リズム・アンド・ブルースとか、和製ポップスなど比較的ゆったりした感じで使われることが多いようです。

タンゴ コンチネンタルタンゴで多く使われるリズムパターンです。
ビギン おなじみのビギンのリズムです。バランスの調整でシンバルのリズムパターンをすこしおさえ気味に試してみるのもいいと思います。

ルンバ ラテンリズムでは一番ポピュラーなルンバのリズムです。ラテンの曲ならひととおり何でも合いますが、曲の感じによってそれぞれサンバ・ボサノバ・ジャズロックなどを組合わせても効果的です。

マンボ 表示はマンボとなってい

ますが、チャチャとしても大いに使ってください。(現実にはマンボとチャチャはリズムパターンのうえでは、ほとんど区別されていません。)もちろん、他のラテンリズム・ジャズロックなどと組合わせて、それぞれのリズムを使い分けましょう。

ボサノバ ボサノバの場合もバランスの調節で、ボサロック的な感じと、タイコの音を絞ったクールな感じとを使い分けてみましょう。また、サンバやジャズロックなどラテン系のリズムを混ぜた感じも試してみてください。

サンバ I サンバはボサノバのものになったリズムです。ですからボサノバの曲をスローのサンバで弾いてみるとまた違ったフィーリングになります。本来のサンバのリズムは速いテンポで演奏する機会が多いので、テンポをじっくり確認して、楽しくおおらかに弾きましょう。

サンバ II サンバのバリエーションで、すこしラテン色の濃い感じになります。のり方はすこし難しいかも知れませんが、一度のったら大変に楽しいリズムです。すこしテンポを落として、チャチャの変形として使ってもおもしろい味ができます。

CY-1…シンバル(長)
CY-2…シンバル(短)
CL …クラベス
SDD…スネアドラム
SDNスネアドラム(ブラシ)
SDHスネアドラム
(リムショット)

BD…バスドラム

HB…ハイボンゴ

HC…ハイコンガ

LC…ローコンガ

MA…マラカス

●BD(バスドラム)

のみ休止符を使用,
他は省略してあります。

●JAZZ ROCK IIの
SDD(スネアドラム)は
記譜の都合上,
休止符を最小限度
使用しました。

●各々の打楽器は
同じ位置に記譜して
ありますので,
各々のリズムパターンを
知りたいときには
左の打楽器略号を
横に追ってください。

(1) MARCH I $\frac{4}{4}$ MA CY1 SO BO

(2) MARCH II $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(3) WALTZ $\frac{3}{4}$ CY1 CY2 BO

(4) SWING $\frac{4}{4}$ CY1 SO BO

(5) SLOW ROCK $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(6) JAZZ ROCK I $\frac{4}{4}$ MA CY1 SO BO

(7) JAZZ ROCK II $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(8) TANGO $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(9) BEGUIN $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(10) RUMBA $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(11) MAMBO $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(12) BOSSA NOVA $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(13) SAMBA I $\frac{4}{4}$ MA SO BO

(14) SAMBA II $\frac{4}{4}$ MA SO BO